

## 令和4年度第2回日進市高齢者福祉・介護保険事業運営協議会 議事録

日 時	令和4年11月25日(金)	午前10時～午前11時45分
場 所	日進市役所 本庁舎4階	第2・第3会議室
出席者 (敬称略)	<委員>	田川佳代子、小林宏子、高藤幸枝、天野典幸、大山英之、 大川彰治、山中隆生、諏訪正美、水藤芳枝、林志津子、神野建三 <事務局>
		川本賀津三(健康福祉部長)、伊東あゆみ(健康福祉部参事)、 祖父江直文(地域福祉課長)、西尾直樹(同主幹)、野村圭一(同係長)、 新海洋人(同主査)、櫻木順子(同主査)、中村聡美(同主事)、 梅村英子(介護福祉課長)、小柳和之(同課長補佐)、 鷹見康崇(同係長)
欠席者 (敬称略)	5名	井手宏、田村一央、浅井考介、原口浩美、藤嶋日出樹
傍聴の可否	可	
傍聴の有無	有(2名)	
次 第	1	あいさつ
	2	議事 (1) 第9期にっしん高齢者ゆめプランについて(アンケート等)
	3	その他

事務局 令和4年度第2回日進市高齢者福祉・介護保険事業運営協議会をはじめさせていただきます。本日は、5名の委員がご都合により欠席のため、委員16名のうち11名の方が出席されております。会の成立には半数以上の出席が必要となっており、本日の会議は成立します。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。始めに、田川会長よりごあいさつをお願いいたします。

(会長あいさつ)

それでは議事に入る前に会議資料の確認をお願いします。

(資料確認)

それでは、ここからの進行については、会長をお願いします。

会 長 本日の協議会ですが、2名の方が傍聴を希望しておられます。本日の議題は次第のとおりです。審議の段階で個人のプライバシー等明らかに公開するのに適当でない事項の審議はありません。日進市市民参加及び市民自治活動条例施行規則第16条の規定に基づき、会議を公開とするのか非公開とするのかを決定します。会議の公開についてご意見がなければ、第10条及び第11条の規定に基づき入室を決定したいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

傍聴者をお通しします。それでは、議事(1)「第9期にっしん高齢者ゆめプランについて」、事務局より報告をお願いします。

事務局 (第9期にっしん高齢者ゆめプランについて、資料を使って説明)

会 長 各アンケートの標本数は記載されていますが、母数の記載がないので教えてください。

事務局 市内の65歳以上の高齢者の数は約18,000人で、そのうち要介護認定を受けている方が約3,000人となります。在宅介護実態調査は、要介護認定者の3,000人から施設入所者の方を除いた数が母数になると考えています。フレイル予防調査の標本数は約15,000件と記載しましたが、18,000人から要介護認定者の3,000人とニーズ調査対象者の2,500人を差し引くので、12,500人程度になるかと思えます。居宅介護支援専門員については、市内の居宅介護支援事業所に所属する全員を対象にし、居所変更調査については、市内の介護施設全てを対象に調査を実施する予定としております。

委 員 資料を拝見して、高齢者が増えていくのは当たり前ではありますが、大変なことだなと改めて感じました。

会 長 日進市の65歳以上の方の認定率は約18パーセントとなっています。18パーセントが20パーセントや30パーセントにならないように、今後日進市は取り組んでいくために、全数ではありませんが、かなり大規模な調査をすることになります。アンケート

することによって市民の方の意識啓発をし、介護予防することによって、平均寿命と健康寿命の差を短くしていこうということになります。

委員 民生委員の事業の一つにコミサロがあります。コロナ禍で中止した時期もありましたが、10月からは以前の形に戻ってきました。ただ、北部福祉会館は会員が3分の2に減ってしまいました。この3年間で介護認定を受けて、デイサービスに通う方が増えている状況です。コロナは変化をもたらす大きな要因だったと思います。資料にあるように、今後高齢者が増えていきます。お宅に訪問すると、転んでしまったなどちょっとしたことで体の状態が変わって、生活するのが難しくなっている方も居ますし、健康寿命と平均寿命に10年ほど間が空いている現状にとっても不安をおぼえます。コミサロでは、体を動かしたり、頭を使ったりするので、フレイル予防にもつながります。この状況をなんとかできればと思います。

委員 資料3-1の一般高齢者等向けアンケートについて、ルビが振ってある部分とない部分がまちまちな印象です。ルビを統一してつけた方が良いと思いますが、全体的に読み取りづらくなる可能性があるのも、例えば質問項目の中で特に重点を持って聞きたいところだけにルビを振っても良いかと思います。資料3-1の問64の質問に答えていただいた方には、必要なのに受けていない理由は何かを聞いていただきたいです。社会福祉協議会として地域活動を推進する上で、なかなか地域の声が上がってこない、もしくは必要なのに、なぜそれができないかということと一緒に考えさせていただく際の参考になると思いますし、計画の中で何を重要視するかを確認することができると思います。アンケートの集計について、地域単位でのクロス集計等は考えていられるのか教えてください。

会長 資料3-1の問64について、手助けを受けていない理由を自由記述とする方法、費用がかかるからや、煩わしいから、プライバシーが気になるからといった選択肢を設けて○をつけてもらう方法があると思います。選択肢として何かありますでしょうか。

委員 委員長から提案のあった通り、煩わしいといった心理的な問題の部分以外にも、例えば地域特性的に周りの目が気になって手が挙げられない、親族などすぐに手助けしてくれる人がいるので大丈夫といった環境的な問題が考えられます。心理的な問題と環境的な問題と地域的な問題の部分を簡単に聞くような6つぐらいの選択肢があればと思います。どれにも当てはまらない場合は、その他という項目で自由に記述していただければと思います。

事務局 クロス集計について、地域の単位をどこに設定するかは今後検討する必要がありますが、地域も対象としたいと考えております。第8期のアンケートのときは中部東部西部という日常生活圏域での集計は行っていましたので、それは今回も同様にできると思います。

委員 たくさんの質問項目から情報を収集することで、具体的に今何が必要とされているかを知ることができると思っております。将来に向けての計画というところで考えますと、今後財政的に非常に厳しい状況になるというのは、皆さんもいろんな報道等でご存知かと思っております。要介護の1、2の方の福祉サービスが通常の介護サービスから外されること、ケアプランが有料化されていくことで、これまで気軽に利用できていた介護サービスが非常に敷居の高いものになっていく気がします。金額が変わることによって、利用

しなくてはいけない人たちに、介護サービスが行き届かなくなることを危惧しています。アンケートですごく深くまで聞ければ良いですが、表面的な部分のみになってしまい、根本的に救えていない部分が生じてしまうことは今後の私達の課題なのだと思います。その課題には、地域包括ケアシステムを構築していき、自助公助共助と力を合わせてやっていける地域作りが必要になってくると感じています。

会 長 制度そのものの変容と高齢者が増えるというところで、軽度の方たちが介護保険制度の中でどういう位置づけになっていくのかの懸念をご発言いただいたと思います。そのことについて事務局では、フレイル予防を検討されているようですが、何か発言をお願いします。

事務局 今回のアンケート調査で新しくフレイル予防調査を実施します。こちらがまさに介護予防を見据えた調査になります。回答者がどなたかが、事務局でわかるようになっておりますので、フレイルの調査で例えば少し運動機能が落ちてきたとか、最近出かける回数が減ってきたなどの回答があった方には、それに合わせた介護予防の教室事業の案内をすることで、できるだけ早い段階で適切な予防に繋がっていきたいと思っております。

委 員 資料1の高齢化率の図を拝見すると、日進市も全国と同様に高齢化が進んでいくことが分かります。香久山地区や栄地区は、現在の高齢化率は平均よりが低いですが、約20年で高齢化がかなり進みますし、北新町地区は今後高齢化率が低くなる見込みです。一番望ましいのは、行政的な政策で高齢化率を遅らせることだと思います。それが容易でない場合は、地域に住んでいる人たちが、高齢化が今より進んでいくことを意識して、それに見合った自助共助を今から頑張っていく必要があると思います。3圏域でのクロス集計だと、地域に住んでいる人たちはなかなか自分たちのこととして考えられないので、地区ごとに議論ができるように細かく分析していただきたいです。資料1に地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて仕上げていくことが必要と記載されています。地域の自主性や主体性に基づきとありますが、コロナ禍ということもあり、なかなか実態が伴っていないように感じます。資料3-1問13に昨年と比べて外出の回数が減っていますかとありますが、昨年と比べて減っているのかということと、最近減ってしまったというのはニュアンスが違うと思います。例えば、1年前と比べて、最近減っていますかというような聞き方が良いと思います。次に問43について、たまに今日が何月何日か分からないときがありますが、ときどきあるという選択肢がないので、はいを選択して良いのかが分からないと思います。問66について、認知症になりかかっているのではないかと思うときがあります。そういう状況の方もいると思うので、はいかいいえで答えるのが難しい印象です。資料3-2問5-2の12番について、介護保険サービスを利用していない理由を聞く設問で、介護認定があると受けられるサービスを利用しているという選択肢は分かりづらいように感じます。問7の「現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援という表現もわかりにくいです。問15の選択肢には非常に大事はことがたくさん書いてあります。3つまでしか選択できませんが、5つくらいに拡大しても良いと思います。選択した3つ以外は満足しているように捉えられてしまうと思います。問25の11に医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）とありますが、実際に利用されている方はわかると思いますが、知らない方もいるので、ストーマの説明を付け加

えた方が良いと思います。

最後に、老人クラブ連合会も2年半から3年近くの間、コロナの影響があって非常に活動状況が悪くなっています。各クラブとも非常に低迷している印象です。休止されている単位クラブがあったり、会員が減ってきたりしていて、地域にたくさんいる高齢者の見守りといった単位クラブおよび連合会の役割が弱くなっているように感じます。頑張らなくてはという思いです。

事務局 アンケートの結果を踏まえ、地区別の分析などができるようであれば、分析し何かの折に地域などに還元させていただければと思います。  
地域包括ケアシステムの構築におきましては、生活支援体制整備事業ということで、第2層のコーディネーター等が地域にお邪魔し、地域の方の声を聞きながら、地域の支え合い・たすけあい作りの支援をさせていただいていると考えております。  
社会福祉協議会におきましても、高齢者福祉に限定はされませんが、まちづくり協議会等を地域に作るなど、地域に入って、地域の支え・たすけあい作りの支援をさせていただいていると思っております。今後も引き続き様々な形で地域の支え合い・たすけあいについての支援をしていきたいと考えております。

会 長 関係者間での連携協働を深めていただきますよう、よろしく申し上げます。

事務局 一般高齢者等および在宅要介護認定者のアンケートの緑色および黄色に塗られている質問項目は、国で質問内容および回答項目が定められている項目になります。そういった項目については、大変申し訳ありませんが、修正が行えませんが、ご理解いただきますようお願いいたします。  
資料3-2問15の回答項目が3つというのは足りないという指摘については、一度事務局内で検討いたします。

会 長 国に対して、この質問項目はおかしいのではないかという意見は、市の方から出すことはできるかと思えます。市民から意見があるという情報を国に出していかないと、改善する機会が失われてしまいます。委員の意見にあったとおり、混乱を招くような質問と回答だと思えます。

委 員 日進市も国と一緒に高齢化に進んでいることは、テレビなどから情報を得ているので分かっているつもりですが、実際自分もあと数年で高齢者になるので、すごく不安があります。私は施設に勤めていますが、ヘルパーさんなど介護に携わってくれる人たちが少なくなっている印象です。今も職員が不足していて、どう業務を遂行していくかスタッフで検討することが多いです。安心して生活していくには、家族だけでは難しい状況になってきているので、介護する人口を増やしていく方法は何か考えていく必要があると思います。家族と疎遠になっている方が多いことから、介護で支援していただける若い方を増やしていかなければ、高齢者が安心して暮らす社会の実現は難しいと思います。

事務局 身体介護を伴わない家事援助のみ必要な方を支援する生活支援サポーターの方がおります。生活支援サポーターの養成講座は、定期的に年3回ほど開催しており、訪問型サービスAの事業所でお勤めいただける方を増やしていく取り組みになります。養成講座を受講された方が事業所に勤めている中で、ヘルパーの資格を取り、ヘルパーとして身体介護もできるような形で活動される方もいると事業所から聞いています。介護人材の確保について、一部分にはなりますが、取り組みをしているところです。

- 委員 資料1の5ページに高齢化率が書かれていますが、香久山地区の高齢化率が大きく増加する見込みです。行政で分析研究をしていただき、注釈を設け説明してほしいです。  
11ページに、後期高齢者は増加、生産年齢は減少と書かれています。生産年齢（15歳以上65歳未満）と記載した方が分かりやすいと思います。  
資料3-3問18に老人クラブと記載されていますが、高齢者クラブに変更していただきたいです。高齢者クラブという言葉の方が前向きに捉えることができると思います。
- 事務局 高齢化率の伸び方は、地区によって様々です。香久山については、平成の初めごろに、ほぼ同じタイミングで引っ越してきた方が多かったと思います。そういった地区については、みなさん同じように年齢を重ねていきますので、どこかのタイミングで、一気に高齢化率等が変わっていくのだと思います。それが一つの要因になっていると考えます。  
資料1の5ページ目の生産年齢について、今後資料を作成する際は、15歳から64歳までと表記するようにします。  
資料3-3問18について、老人クラブを高齢者クラブへ言い換えをしてはどうかという提案でしたが、資料3-1問55と同じ設問になっており、ニーズ調査の質問をフレイル調査にも質問事項として取り入れた形となります。問55は緑色になっており、国の必須質問項目になるため、選択肢も含めて表記の変更ができない質問になります。ご提案いただきましたが、このまま変えずにいきたいと思っております。ただ、市内の老人クラブの中には老人クラブという名称を使わず、いきいきクラブといった名称を使われているクラブも結構あります。委員がお話しされたような趣旨でクラブの名前を変えられているところもたくさんあると思いますが、調査の選択肢につきましては、このまま変えずに国の必須項目とあわせた形にしたいと考えております。
- 委員 資料3-3問18に追加で、6を選んだ参加していない方々に、参加しない・もしくはできない理由を聞いていただきたいです。参加したいが、このような理由で参加できないということがわかると次に繋がっていくのではないかと思います。例えば、収入のある仕事がしたいけれどもなかなか見つけられない、参加の移動手段があれば参加できるけれども移動手段がない、参加方法がわからない、どのようなグループがあるのかわからない、声をかけられれば参加をしたいなどが考えられます。福祉有償運送を7年行っていますが、この福祉有償運送を仕事として取組みたい方がたくさんいらっしゃいます。また、施設や訪問介護では前期高齢者と呼ばれる年齢の方々が非常に活躍してくださっています。そういった取り組みをしたいが、方法手段がわからないという方もいらっしゃいますので、質問することで繋がればと思います。移動手段については、地域の方々がたすけあいで移動の支援を進めてくださっていますが、例えば自動車の保険が自己負担でなく補助があれば、たすけあいに関わる個人の負担がもっと軽ければ、参加したいという意見も聞きます。今後の高齢者の方々の活躍に繋がるアンケートになればと思います。
- 事務局 資料3-3問18について、参加していない理由を聞く設問の選択肢の候補をいくつかご提案いただきましたので、追加する方向で検討します。資料3-1問55で同じ質問をしていますので、こちらをあわせて変更したいと思います。  
地域でいろんな取り組みをされている方が考えている課題について、今回は団体へのアンケートを予定していないので、確認できませんが、生活支援コーディネーターは様々な団体と話す機会があると思いますので、そういったところで住民の皆さんが主体的に活動されているときのお悩みを伝えていただければ、市の施策や支援に反映できるので

はないかと思っております。

委員 介護保険サービスを提供する立場の者として、資料3-2在宅要介護等認定者へのアンケートは非常に貴重な資料としていただけるなど期待しております。

まず、アンケートに回答される方の要介護度を聞くということではできないでしょうか。要介護度によって、答えが変わってくると思います。要介護度でクロス集計をかけると見えてくるものがあるかと思えます。

サンプリングの抽出の仕方について、資料3-2の対象が日進市在住で要介護認定を受け在宅で暮らしておられる方となっておりますが、この条件を満たしておられる方から無作為で1200件抽出するのでしょうか。それとも、要介護度によってある程度バランスが取れるような、抽出の仕方を考えておられるのかお聞きしたいです。サンプリングの選び方とクロス集計の結果は連動してくる部分がおそらくあるだろうと思います。資料3-2問5について、介護保険サービスを利用した利用していないという設問がありますが、この質問に対して、正確に答えられるのか不安です。問5-2でサービスという言葉で示している内容が多岐にわたっています。その後の問6・7で介護保険サービスと介護保険サービス以外を答える設問で、初めて介護保険サービスとは何かが出てくる流れになっています。正確に問5を答えるためには、問6のようなサービスの一覧がそれより前に出てくる必要があると思いますので、質問の配列の仕方を工夫してください。

問5-2ですが、選択肢10番と12番のサービスの区別がつきにくい、あるいはつけられないと思います。国が示しているオプションの設問になってはいますが、制約があるのであれば、オプションから外して、市の独自の設問として作れば良いのではないかと思います。

事務局 要介護度については、市で把握しておりますので、外部への公表は予定していませんが、内部でアンケートと関連付けをして分析は行う予定となっております。

抽出の仕方ですが、現在のところは直近に介護認定を受けた方から遡って1200人を対象にする予定です。

オプション項目の設問を入れるか入れないかは、市町村の判断になりますが、入れた場合は、決められた設問の仕方・選択肢とさせていただきますという形になります。ただ、問5-2は1番から12番まで選択肢がありますが、国が示した選択肢が1番から12番までなのか、例えば1番から11番まで国が示した選択肢で、12番は市独自で追加している可能性があります。内容を精査した上で説明の工夫をしていきたいと思えます。

問5についても、設問の仕方自体は緑色なので変えることはできませんが、注釈や解説を加える、順番を入れ替えるといった工夫ができればと思います。

委員 最近こども神輿が約3年ぶりに回り始めて、施設と地域の交流ができました。コロナ前は、施設内に入ってもらって園庭をぐりと回って、みんなで写真撮ってお菓子配っていましたが、今年は門の前でわっしょいわっしょいとやってもらって、おひねり渡して終わりという形でした。来年は施設内に入りませんかとお誘いしましたが、地域の方も高齢者施設に足を出向くということを抑えている様子でした。コロナの影響で、今後もしもいろいろな課題がでてくると思います。

今回実施する介護支援専門員に関するアンケート調査はすごく良いと思えます。地域包括ケアシステムの構築に向けて、アンケート結果をいかしていただきたいです。また、包括支援センターの強化はとても重要だと思います。地域のケアマネさんたちがずっと相談に行って、地域ケア会議を開催できるような地域での雰囲気作りをしていただきたい

いです。それは包括だけに任すのではなくて、行政やこの協議会に集っている方々が声かけをして、情報共有ができればと思います。

会 長 施設で多世代交流などをされているという報告でした。日進市でも重層的支援体制の整備を進めていかれるということですが、参加支援なども含めて何かありますか。

事務局 国では現在、地域共生社会の実現のために、制度の分野にとらわれない高齢障害子育てといった様々な分野が協力連携しながら、相談機関の連携だけでなく地域作りなどにおいても連携していくような仕組み作りを進めることとしています。本市としても、地域共生社会や重層的支援体制整備事業などについて、検討を進めていきたいと考えております。

委 員 資料3—3問18の老人クラブは変えられないということでしたが、老人クラブ（いきいきクラブ・友愛クラブ）という表記にはできませんか。

事務局 選択肢に、補足として注釈で言葉を出すこと自体は止められていないので、委員のご提案のように追記したいと思います。  
選択肢の必須項目の回答は、国が用意しているシステムに全国の市町村が登録をする仕様になっているため、選択肢を変えないようにとされています。システムに登録することで、近隣市町村や同規模自治体と比較することができ、全国の自治体と比較して日進市の特徴がわかるようになります。そういった趣旨のもとで、全国统一の質問を設けられておりますので、ご理解いただければと思います。

会 長 多くのご意見をありがとうございました。事務局で今回の協議会で出たご意見等を検討していただき、修正後のアンケートの確認は、会長である私に一任いただくという形でよろしいでしょうか。

（異議なし）

では、以上で本日の議事は終了となります。事務局からその他報告事項などがあればお願いします。

（障害者差別解消法の講演会のお知らせ）

（障害者週間の図書館展示のお知らせ）

事務局にお戻しします。

事務局 委員の皆様より貴重な意見をいただきまして、誠にありがとうございました。今後はいただいた意見を参考に検討、改善を進めていきたいと思っております。  
本年度の協議会は本日で最後になります。来年度につきましては、ゆめプランの策定年となりますので、先ほど説明させていただきました通り、年4回程度の会議を予定しております。開催の1か月ほど前には開催通知を送付させていただきますので、よろしくをお願いします。事務局からの連絡は以上です。その他、委員から何か報告や周知事項等ありますでしょうか。

（報告事項なし）

これで令和4年度第2回高齢者福祉・介護保険事業運営協議会を終了いたします。本日は、ありがとうございました。

(午前11時45分閉会)